

第 39 回運営会議 (2004. 11. 03 開催) 結果報告		2004. 11. 04 庶務発信
開催日時 :	2004 年 11 月 3 日 (水) 10:00~12:20	
場 所 :	キャンパスプラザ京都 2階第 2 会議室	
参加者数 :	運営会議委員 7 名 (委員長、利水部会長、治水部会長、環境・利用部会長、住民参加部会長、琵琶湖部会長、淀川部会長) 河川管理者 3 名	
検討内容、 決定事項	<p>1 決定事項 (各会議の今後の進め方について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業進捗の点検については、全体の意見として集約するために、各部会の代表者数名で構成する会議で検討して、12 月 20 日の第 36 回委員会か 1 月上旬の委員会で検討する。各部会の代表者は、琵琶湖部会が江頭委員、中村委員、淀川部会が今本委員、榎屋委員、川上委員、猪名川部会が池淵委員、本多委員とする。なお、この件については、11 月 16 日 (火) の第 35 回委員会で要請する。 ・ 意見書作成に際して、地元住民から広く意見を聞く場を設けることとし、12 月 5 日 (日) 13:00~17:00 の予定で意見を聞く会を開催する。 ・ 意見を聞く会は、事前に意見を募集し、時間の範囲で意見を述べていただくために、11 月 10 日 (水) のダムWGで検討を行い、11 月 16 日 (火) の第 35 回委員会に提出された報告書案を使って意見募集の広報を行う。応募期限は 11 月 24 日 (水) 必着とし、ダムWG作業部会で即座に発言者 (十数名) を決定し、意見を聞く会での発言を依頼する。なお、応募意見は公表することとし、この手続きは、11 月 16 日 (火) の第 35 回委員会でアナウンスする。 ・ 12 月 11 日 (土) 13:30~17:00 の予定で、意見書案を検討するコアWGを開催する。 ・ 1 月 22 日 (土) に最終委員会が予定されているが、報告書案等の検討を深めるため、1 月上旬に委員会を開催する。日程は、1 月 11 日 (火) を第 1 候補、1 月 8 日 (土) を第 2 候補として、委員の予定を考慮して早急に決定する。開催時間は 13:30~16:30 とする。 ・ 次期委員会では、現委員のうちのかんりの委員が辞めることが予想されることもあり、求められている本来の意見のほか、委員会としての成果と課題についてコメントする。そのため、各委員から意見を出してもらおう。 <p>2 意見書のとりまとめについて(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見書は、諮問に対して意見を述べるということで、決定する訳ではないが、実質的には大きな意味を持つ。また、社会的な責任も負っており、客観的にみて妥当なものでなければいけない。今本リーダーのとりまとめの方針には、基本的に賛成であるが、対象洪水と環境の問題については、気になる問題である。(委員長) ・ 対象洪水については、委員会としては、既往最大洪水を前提とするということは共通の理解だと思うが、最近の雨の降り方はきつくなってきており、それでよいかということである。きちんと議論する必要がある。(委員長) ・ 環境の問題については、利水、治水を検討していったダムが必要な場合は、環境を検討していかうとしているが、環境そのものがダム建設の可否につながるという意見もある。メリット、デメリットの議論を充分していないのではないか。環境についての専門家の意見を書いてもらってはどうかという話をした。(委員長) <p>①対象洪水について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あくまでも、いかなる洪水に対しても対応していくといった方向のなかで、できることをしていくと考えており、それほど大事だとは思っていない。(ダム WG リーダー) ・ あらゆる洪水に対応していかうとすれば、堤防補強が前提となるが、それを 20~30 年でできる訳ではないため、できていないことを前提として考えるべきではないか。(委員長) ・ それは、目安の程度の問題であり、例えば、既往最大洪水から何割引するといった場合、その根拠等が公にされることが重要である。最初から何倍にするという議論はよくない。環境保全は、目的化してしまっているが、まずは治水というのは河川法を反映していないのではないか。 ・ 既往最大規模という言い方はよくない。既往最大は、既往最大である。(ダム WG リーダー) ・ それでよいが、地域の特性に応じて、既往最大を下げないといけないこともある。降雨パタ 	

	<p>ーンを検討して2割増ということもあり得る。(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2割増というものが出ると具体的になるが、割増は賛成ではない。 ・ 一般論として、これまでの計画高水の不明確さを克服する必要がある、対象洪水を明確にする必要がある。既往最大を前提とすることには異議はないが、実際には様々な降雨パターンがあることも事実である。あくまでも、検討過程でこうすればこうなるということに対して、委員会として意見を述べないといけない。 ・ 猪名川部会でも、既往最大をいつ時点のものにするかの議論をしたが、既往最大規模と既往最大といった場合、その規模については選択肢もあり得るのではないか。横並びでないものがあったもよい。 ・ この場所については、何割増で考えざるを得ないというのは、河川管理者が出すことで、基本は既往最大規模という目安であり、場所によって増やすことも減らすこともあるが、それに対して意見を言っていけばよい。 ・ 治水については、比較でよいかも知れないが、治水、利水、環境を踏まえて、総合的に意見を述べないといけない。 ・ 現実問題として、そのパターンはこれまでになかった訳で、引き伸ばしが先にありきではないとしても結果は同じことではないか。(ダム WG リーダー) ・ 既往最大流量の方がわかり易いのではないか。従来のもの以外のものはだめというのは説明の必要がある。 ・ 本来は、土地利用と流量は密接な関係があり、流量が出ないように土地利用について物を言えるのかどうか。それができなければ、既往最大降雨を前提とすることになる。 ・ 河川管理者は、土地利用によって流量が変わるのを逆手にとって、降雨に基づいて計算しており、降雨パターンを変えることにより降雨量で2倍(流量では4倍)まで、任意に設定できるようになっていることが問題である。(ダム WG リーダー)。 ・ 極端に伸ばすのは問題であるが、ある程度の余地を残すことも必要である。既往最大洪水を基準として、雨の降り方も考慮すると変わる可能性もある。(委員長) <p>②環境の問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大戸川、高時川の放流により、琵琶湖の水位変化を自然に近い状態にしていくということに対しては疑問を持っている。温暖化が進むなかで、大丈夫かどうかという確信が持てない。渇水が起これば、致命的なこともあり得る。ダムはワンオブゼムとして考え得る選択肢であるが、極論すると賭けであり悩んでいる。 ・ 治水、利水とは異なり、安全側にたった議論しかできない。いずれにせよ、ダムによる環境への影響を整理したい。本当は、利水、治水、環境の順でよいのではないか。それが環境軽視となることはない。 ・ そのような考え方でよいと、今になってそう思う。治水、利水からダムはいらないということになれば、環境の検討はいらないということになる。しかし、高時川については、何も言わない訳にはいかない。 ・ 高時川のマイナス面として、流入水による無酸素化が進むということがあがるが、それについては、分からないことが多い。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---

※このお知らせは委員の皆様にも主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただきます。